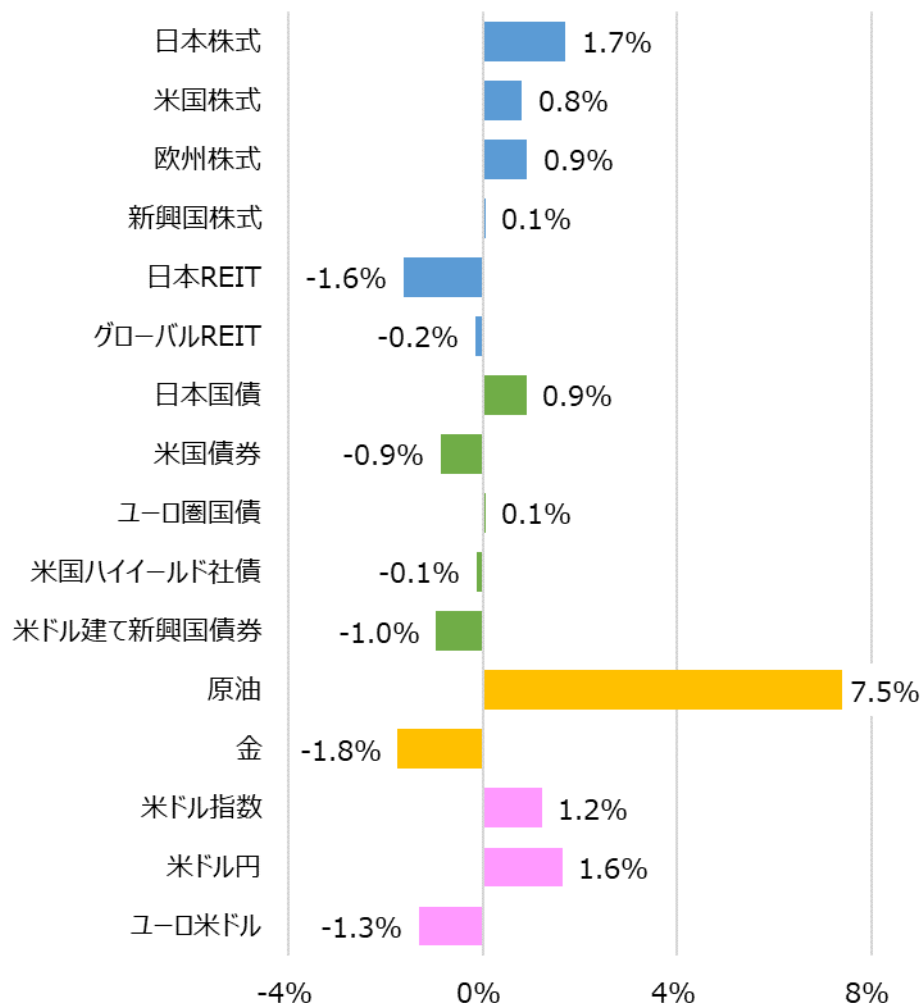


## Weekly Market Review

期間：2021年3月1日～2021年3月5日



## 【日本株式】

首都圏を除く6府県で緊急事態宣言が解除されたことや、武田薬品が米モデルナ開発のワクチンの製造販売を申請する方針と伝えられ、国内普及が加速するとの期待が高まったことなどが上昇要因となりました。黒田日銀総裁がETF購入を弾力的に行なっていく必要があると発言したことも買い安心感に繋がりました。一方、米ハイテク株安から国内でも値がさグロース系の銘柄中心に売りが膨らむ局面もあり、相場全体の重荷となりました。

## 【米国株式】

議会下院が経済対策法案を27日に可決し、上院での採決を経て3月中旬までに成立する見通しとなったことや、米ジョンソン&ジョンソン開発の1回接種タイプのワクチンの緊急使用が承認されたことなどから景気敏感株に買いが入り、相場を支えました。一方、パウエルFRB議長が金融環境の持続的なタイト化は懸念材料だとしつつも具体的な施策に言及しなかったことなどから長期国債利回りが再度急上昇し、割高感が強いハイテク株は売りに押されました。5日発表の雇用統計では非農業部門雇用者数が予想を大幅に上回る伸びを示しました。失業率も低下し労働市場の回復を印象付けました。

## 【欧州株式】

英国株のリターン貢献度が高くなりました。休業者の所得支援策や住宅購入者への減税措置の延長などが盛り込まれた2021年度予算案が好感されました。欧州主要国の長期国債利回りの上昇が一服したことや、ユーロ圏製造業購買担当者景気指数（PMI）改定値が速報値から上方修正されたことから、ユーロ圏の株式市場も概ね堅調でした。

## 【新興国株式】

米ハイテク株の不安定な動きが続いたことからアジア新興国の主力ハイテク株が相場全体の足かせになりました。中国国家统计局発表の製造業PMIが前月から低下し、予想に届かなかったことも弱材料視されました。新興国通貨が対米ドルで軟調に推移したことも米ドルベースの新興国株式指数の上値を抑えました。

## 【日本REIT】

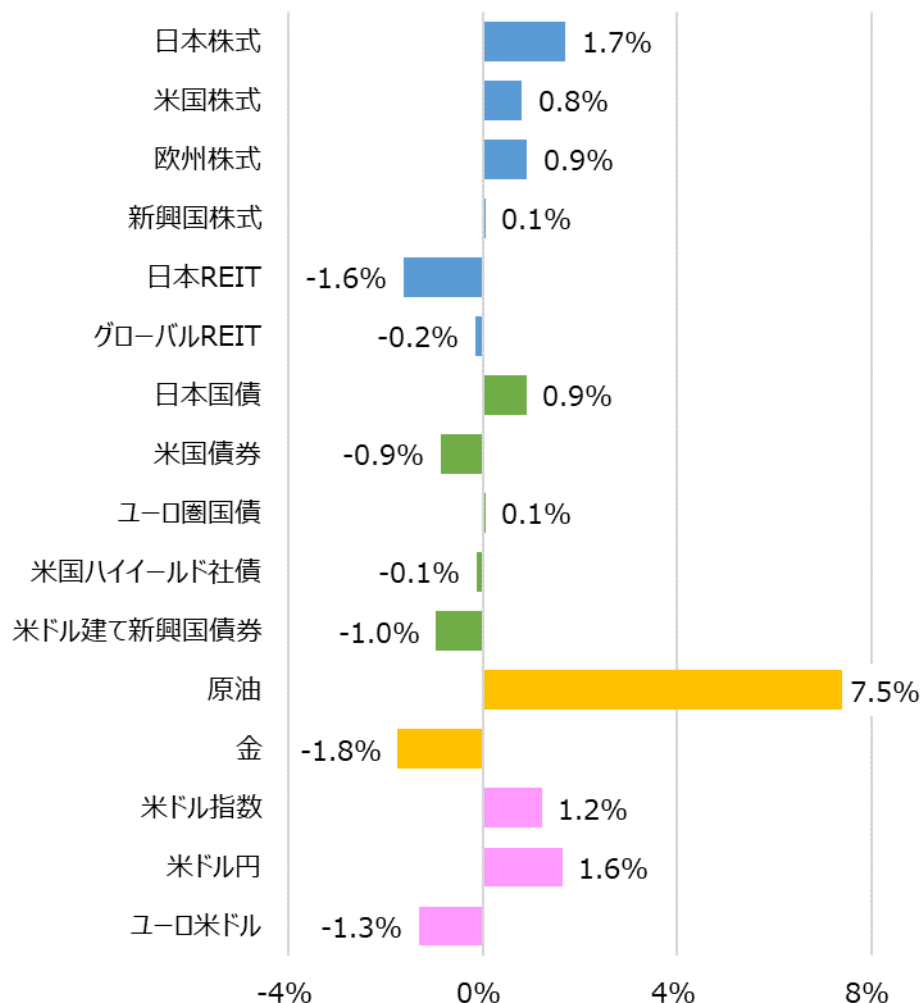
足もとで堅調な動きが続いていたことから利益確定売りに押されました。米長期国債利回りの再上昇も、高分配が魅力のREIT市場からの資金流出に繋がりました。

## 【グローバルREIT】

米長期金利が再び上昇したことから、上値が重くなりました。米ドル高も米ドルベースのグローバルREIT指数の押し下げ要因になりました。

## Weekly Market Review

期間：2021年3月1日～2021年3月5日



## 【日本国債】

黒田日銀総裁が26日に長期金利の誘導目標を0%±0.20%程度に抑制する方針を改めて表明したことや、5日に**長期金利の誘導目標幅を拡大する必要があるとは考えていないと**表明したことから長期国債利回りの上昇に歯止めがかかりました。10年国債入札では堅調な需要が確認されましたが、30年国債入札は低調な結果に終わりました。

## 【米国債券】

パウエルFRB議長が長期金利の上昇抑制策に言及しなかったことから**10年国債利回りは再び1.5%超の水準まで上昇**しました。ISM製造業・非製造業価格指数がともに前月から大幅に上昇したことや、地区連銀経済報告（ベージュブック）で目先の賃金や物価の上昇を予測する地区が散見されたことも**インフレ圧力の強まりを意識**させました。米政府が5月末までに全成人分の新型コロナウイルスワクチンを確保すると発表したことも債券売りを促しました。

## 【ユーロ圏国債】

ユーロ圏の消費者物価指数速報値はインフレ圧力の強まりを意識させる結果でしたが、**ラガルド総裁や他のECB高官が過度な債券利回りの上昇に対処する方針**を示したことで底堅い動きになりました。一方で、米長期国債利回りが再度急上昇した局面などではユーロ圏の長期国債利回りも連れた動きになりました。

## 【米国ハイールド社債】

基準となる米国債利回りが再び上昇し、**クレジットスプレッドも拡大**しましたが、米国債利回りへの感応度が相対的に低いことから底堅い動きでした。

## 【新興国債券（米ドル建て）】

引き続き、米ドル金利上昇や米ドル高による**債務負担増観測からクレジットスプレッドが拡大**しました。基準となる米国債利回りの再上昇もパフォーマンスに悪影響を与えました。

## 【コモディティ（金・原油）】

金は米長期国債利回りが再び上昇し、**インカムのない資産という負の側面が売り材料**視されました。米ドルが対主要通貨でほぼ全面高となったことも代替通貨としての魅力度低下に繋がりました。原油は**OPECプラス会合で4月以降も現行の協調減産幅をほぼ維持**することで参加国が合意し、減産幅縮小を予想していた市場参加者に歓迎され、大幅高となりました。

## 【米ドル指数】

米長期国債利回りの再上昇から一部の資源国通貨を除いて米ドル買いが優勢でした。**米ボラティリティ・インデックス（VIX）の上昇局面ではリスク回避の米ドル買い**も見られました。

## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてPayPayアセットマネジメント株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「アストマックス投信投資顧問株式会社」から変更いたしました。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ